

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 藤山		
所在地	山口県宇部市東藤曲1-1195-2		
電話番号	0836-29-5000	事業所番号	3570201057
法人名	社会福祉法人むべの里		

訪問調査日	平成 20 年 5 月 9 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人 非常勤 4 人 (常勤換算 6.4 人)	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~	階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 400 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 月1000 円	
その他の費用	月額 11,000 円		
	内訳 光熱水費		

(4)利用者の概要 (5 月 9 日現在)

利用者数	9 名	男性 名	女性 9 名
	要介護 1 4	要介護 4	0
	要介護 2 3	要介護 5	0
	要介護 3 2	要支援 2	0
年齢	平均 85.3 歳	最低 71 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科 むべの里診療所 河原内科 歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	多才な職員が多く、絵手紙や書道、手芸など趣味で覚えた技術を幅広く活用し、利用者と一緒に作成した作品がリビングの壁などに飾りきれないくらい展示してあります。また利用者の生活歴や趣味・思考を職員は良く把握しており、日常生活でも歌の得意な人が歌い、踊りの得意な人が踊ることも多く、職員が用意した着物とにわか作りの舞台で誕生会などが盛会に行われています。
(特徴的な取組等)	法人グループの診療所や訪問看護ステーションの協力による決め細やかな医療連携、併設の生活支援ハウスやデイサービスセンターの利用者との交流など法人本部の多機能性を活かした支援が行われています。日常の散歩や買い物などで顔見知りになった地域の人々を、納涼祭に招待するなど、ホームが地域交流の拠点となっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	前回の外部評価結果を基に、グループホーム会議等で対応策が前向きに検討されています。地域の行事にはまだ参加できていませんが、地域の人との交流は運営推進会議等での呼びかけもあり、少しずつ広がっています。研修の機会は多く取られています。
(今回の自己評価の取組状況)	グループホーム会議において今回の自己評価の意義について説明をし、職員全員に自己評価表を渡し、記入してもらっています。管理者が意見を集約し、改善課題に付いてまとめ、日々のケアの振り返りや見直しなどサービス改善に向けて取り組んでいます。
(運営推進会議の取組状況)	2ヶ月に1回高齢福祉課1名、地域代表1名、家族代表2名と職員で開催されています。利用者の状況報告、行事報告、外部評価への取組状況等について話し合い、意見を聞き、サービスの質の向上に努めています。
(家族との連携状況)	毎月1回、ホーム便りで利用者の状況を知らせるほか、家族の訪問時には健康状況や日頃の暮らしぶりを伝えておられます。特に、年に1度の家族会では、家族同士の交流もあり、利用者と職員との交流も行われています。
(地域との連携状況)	近所のスーパーへ買い物に行く途中やゴミ出し、散歩の行き帰りなどで地域の人から声を掛けてもらうようになり、毎年行っている納涼祭にはその人たちを招待しています。生活支援センターの入居者や、デイサービスセンターの利用者との交流も盛んです。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印・(取り 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	運営者、職員全員で理念の見直しを行い、地域に開かれたグループホームを目指し、地域の中でその人らしく暮らせること等を定めた事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念はホーム内に掲示され、管理者と職員は、グループホーム会議やケース会議、全職員会議などの機会を捉えて理念の共有を図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近所のスーパーへ買い物に行く途中やゴミ出し、散歩の行き帰りなどで地域の人から声を掛けてもらっている。毎年行っている納涼祭でも近所の人との交流を図っている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を職員全員に配布し記入してもらい、それぞれの項目についての改善課題を取り上げ、日々のケアの振り返りや見直しなどサービス改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、合同運動会やクリスマス会等の行事報告、外部評価への取組状況等について話し合い、意見をいただき、サービスの質の向上に努めている。メンバーが固定しているので、参加者の拡大が望まれる。	○ ・参加者メンバーの拡大
6 (11)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所の抱えている課題については、法人本部を通して市と協力しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回、個人の預かり金の明細書、請求書と一緒に、一人ひとりの暮らしぶりの写真や利用者の健康状態を載せた藤山グループホーム便りを送付している。年1回の家族会や訪問時には、新任職員の紹介や利用者の状況報告を行っている。		
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会や訪問時に意見や要望を聞いたり、玄関口に苦情受付箱を設置するなど気軽に意見が出せるよう工夫している。重要事項説明書には苦情相談の窓口、担当者、外部機関が明示され、ホーム内には第三者委員名簿が掲示されている。		
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤4名、非常勤4名の勤務体制で、利用者の要望に柔軟な対応ができるよう、職員全員で話し合い勤務調整をしている。管理者はいつでも出勤出来る体制を整え、どんな些細な事でも連絡を取れるよう指示している。		
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者が馴染みの関係が続けられるよう職員の異動は最小限に留めるようにしている。退職の場合は利用者へのダメージを防ぐため、2週間ほど重複出来るよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、法人を通して受けることが出来るよう配慮され、2ヶ月に1回の法人本部での研修への参加やその報告会、介護福祉士やケアマネなどの資格取得のための勉強会など、職員が学ぶ機会を数多く確保している。	○	・外部研修の機会の増大
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・小野田ブロック研修会、宇部市内のグループホームの勉強会などに参加し、職員同士の交流や情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には、初期段階での協力体制が築けるよう家族と良く話し合い、入居してからは、職員が頻繁に声かけをしながら、一緒に行動するなど、馴染みの関係ができるよう心がけている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者と一緒に過ごすことを大事にし、利用者に「楽しいねー」と言ってもらえるケアを心がけている。訪問時には、歌の好きな利用者が歌を歌い始めると、他の人がその歌に併せて踊ったり、職員も一緒になって手を叩きながら応援しているというとても和やかな光景が見られた。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報や生活歴の把握に努めると共に、日頃の関わりの中で、利用者の思いや気づきを把握するよう心がけている。特に、利用者の思いがけない言葉や仕草などは、気づきノートに記録するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者については、気づきノートや連絡ノートから日頃の思いを取り上げ、家族からは訪問時に意見を尋ねたり、それぞれの希望を反映しながら、担当者からの意見を中心に職員全体での話し合い、カンファレンスを通して介護計画を作成している。	
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。状態の変化や問題が発生した場合は随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人の公用車を使つての病院への移送サービスや、利用者の自宅へ行ってみたいと希望があれば家の近くまでドライブするなど、家族や利用者の希望に添えるよう柔軟な支援に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在の協力医療機関はかかりつけ医として利用者や家族に全員納得してもらっており、月2回の往診と週2回の訪問看護師による健康チェックが行われている。		
20 (53)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期になった場合、本人、家族の意向を踏まえた上、かかりつけ医と相談し、方針を本人、家族、職員全員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉や態度に充分気をつけるよう職員全員で話し合っており、排泄などの声かけのときは、必ず利用者の傍に行き耳元で言うよう配慮している。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い適切に管理している。		
22 (59)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は、利用者一人ひとりの暮らしぶりを良く把握しており、職員の都合を押し付けることなく、その人のペースに合わせて支援をしている様子が伺われた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段は、昼食と夕食を法人からの配食で賄っているが、月に4回、利用者と職員が一緒に調理をしたり、盛り付け、片付けなど役割分担をしながら楽しい時間を過ごしている。	○	・食事作りの機会の回数の増大
24 (64)	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日可能で、15時から17時までの間に、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。お風呂嫌いの人には仲の良い人に誘ってもらうなど、職員がいろいろと工夫をしながら支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	習字や絵手紙の好きな人、歌や踊りの得意な人、食事の準備や後片付けがいつもの役割となっている人など、利用者一人ひとりの趣味・嗜好を職員が上手に活かしながら、活力ある支援をしていた。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	月1回外出の日を決めて、外食や花見などで気分転換を図っている。できるだけ利用者の状況に合わせて、散歩をしたり、スーパーでの買物や喫茶店でお茶を飲んだりという計画を立てている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。特に、やさしい言葉遣いや声かけに徹することや、掛かりつけ医と相談して眠剤など、なるべく薬を使用しないようなケアを心がけている。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけておらず、鍵をかけないことの意味を職員は充分理解している。帰宅願望のある利用者には、職員が気をつけ、時には一緒に外出したり、車で外出するなどの工夫をしている。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のマニュアルがあり、事故・ヒヤリはと報告書に記入している。職員は利用者一人ひとりの行動パターンや注意すべき点を良く把握して、事故が起こらないよう気をつけている。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、緊急の場合は、職員は自分だけで判断しないですぐに緊急連絡網の体制に従って連絡するようにしている。日中は、併設のデイサービスセンターの看護師3名に応援を依頼している。誤嚥についての勉強会も実施している。	
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に1回、消防署の協力で防災訓練を実施し、消火器の使い方などを行っている。避難訓練はグループホーム独自で年2回実施している。今後は地域の人へも呼びかける計画である。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人むべの里グループホーム藤山
所在地	宇部市東藤曲1丁目1195番地の2
電話番号	0836-29-5000
開設年月日	平成 15 年 1 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (4月25日現在)

ユニットの名称	グループホーム藤山				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性	名	女性	9 名
	要介護1	4	要介護4		
	要介護2	3	要介護5		
	要介護3	2	要支援2		
年齢構成	平均 85.3 歳	最低 71 歳	最高 96 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員8名に自己評価表を渡し、記入してもらうようにする。 職員の意見、難しく記入できない項目が多くある。
評価確定日	平成 20 年 5 月 9 日

【サービスの特徴】

入居者の能力を十分に引き出す支援として、ゲームでの計算、習字、絵手紙、紙人形などの創作活動や、花を育てたり、編み物をしたり、職員と一緒にバイタルサインの読み合わせを行なうなど、心身の負担にならないような活動の場面づくりに取り組まれています。同法人に本ホームを含め5つのグループホーム、診療所、訪問看護ステーション、特別養護老人ホームなど、医療と福祉の各種関連施設があり、連携しています。希望があればターミナル的なケアにも応じています。代替職員を確保し、勤務時間を工夫して、外出や行事などの際に充当することによって、入居者の生活の流れやペースを大切にケアを行なっています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<u>〇地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の理念にもとづいて、グループホームの運営理念をH18. 11月作成する。	☐ 職員は出勤日は必ず読んで、確認をする。
2 (2)	<u>〇理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	グループホーム会議、ケース会議などで共有し、取り組んでいる。	☐ 法人の理念ともに職員は理解している。
3	<u>〇運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	グループホーム内に明確に提示してある。	☐ 職員は必ず勤務時には理念の前、介護目標を確認。
4	<u>〇運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	管理者、職員もグループホームを理解し、支援に毎日研さんしている。	☐ 介護理念を作成し、提示してある為、心がけている。
5	<u>〇家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議など理念や支援への取り組みなどをご家族に伝える。	☐ 見学にみえる方にも必ず理念を伝える。
2. 地域との支えあい			
6	<u>〇隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	近所の人達はあいさつなど必ずする。車の出入時安全確認、近隣の人達の子供さんたちの声掛け配慮。	☐ ゴミ出しなどを一緒にする。近所の人に逢ったら、あいさつをかわす。
7 (3)	<u>〇地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	職員とゴミ出しなど、一緒にしながら、地域の人達と交流を深める。敬老会の参加はGHに住居票がある人だけの招待なので地域に帰っての参加ができない。	☐ 地域でのお祭りなど参加できるように家族にも支援をお願いしたい、敬老会の参加も支援したい。
8	<u>〇事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	藤山納涼祭、年に1回行う 法人としても年1回講演会などを施行している (2008むべの里講演の集い)	☐ 地域の人達の参加多く楽しんでもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	職員に見えるように出し閲覧 外部評価時、自分の思いが伝えられなかったと職員が落ち込む 勉強会など持ち研鑽したい
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	反省会をする。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	市町では、地域代表者が少ないと言われている。
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	○	勉強し学びたいと思う。
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	グループホームでは見受けませんが利用者様に目配りしている。
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	○	必ず、契約時は施行している。
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	○	苦情のでないよう対応する。
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	健康状態は必要に応じて、連絡はおこたらない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	毎月ホーム便りなどとお知らせする。 金銭明細書と共に送付している。 領収書はGHで保管、必要に応じて返す。	○	家族の要請があれば送付、家族の意向はゴミになるからいらない、保管義務のひまでは預かる
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	来訪時には、家族に声掛け意見や要望が出しやすいよう心がけ苦情相談を気軽に受け、処理、対応する。	○	職員にお手紙を書くよう指導していきたい。
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員には、なんでも話し合いができ、聞ける管理者であるし、信頼関係もできている。	○	第三者が委員はGH内に明確に表示あり
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況や要望に応じ、外出や行事など勤務体制を調節し、 緊急時は職員間で調節している。	○	気になることは、なんでも話し合いをもてるよう工夫
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動もあるが、法人が気を使いながらの異動なので、あまり影響は無いが、法人なので仕方ないこともある。	○	最小限の異動希望
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	利用者の状況や要望に応じ、外出や行事など勤務体制を調節し、 緊急時は職員間で調節している。	○	職員全員に研修が行なってもらえるよう法人に働きかけを行う。
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	年齢的にも若い人、年配者など調度いい具合の職員配置かと思え、利用者も安心感がある。	○	若人は利用者が喜ばれるし、年配の人は安心感がある様子なので、よいのではと思う。
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡協議会、ブロック交流会、市町のグループホーム勉強会など、管理者の参加はしている。職員に声掛けするが、勤務時間の調節が難しい	○	なるべく職員が参加できるよう勤務調整をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務を無理の無いように勤務表の作成 休憩の確保をきちんと行うなどストレスがたまらないよう配慮	○	勤務は職員同士で交代も可能 GHに迷惑はかけない、管理者、対応
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	法人が資格取得のための研修を定期的に行っている。勤務時間を工夫して参加を促している。また、職場独自の介護技術研修を法人の提起により取り組んでいる。	○	勤務の都合はつけるので、参加するように声掛けをし何時も促す、資格は自分のため
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	法人が適切に対応。	○	職員に努力するように伝え、サポートする
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	介護力より介護関係に重点をおきながら、傾聴に努める 居室での対話に心がける	○	職員、個々の違いについて、良く話し合い 信頼関係の構築に努めるように努力をする
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	施設入所される本人より家族の思いをくみながら、支援に配慮し できるかぎりの相談には応じ対応する	○	家族の思いも考慮しながら、本人の意向を なるべく早くキャッチし支援に入る
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の思いにきずく、意向に沿えるように努力する	○	此处に早くなじめるように支援、職員が同じ 気持ちを持ち方向性をきめる
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	初期は本人の意向、家族の意向に沿いながら、GHでの生活 になれて頂くことに重点をおく	○	その人をしる努力
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者に添いながら、役割を持って頂きながら、日々の暮らしを その人らしく支えながら、普通の暮らしが出来るよう支援 無理強いはいけしてしない、尊重の精神を職員は忘れない事	○	言葉ずかしい、尊敬、尊重をする きずいたら職員同士が伝えたりする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<u>〇本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	〇	ご家族にはGHの生活を安心できるよう気付きなど、お伝えする支援。
34	<u>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	〇	認知症であることを理解をし、すべての事は伝えない支援(最小限)にする。必要な事は必ずお伝えする。
35	<u>〇馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	〇	面会者は家族の希望もあり、希望に添った支援。
36	<u>〇利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、に利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	〇	テーブル、ソファの座る位置が限られたスペースなので、気配り、目配りをおこたらない。
37	<u>〇関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	〇	必要に応じての受け入れ先を探す、安心がもてるよう支援。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<u>〇思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	〇	利用者の気付きをノートがあるが記入がなかなかできない。
39	<u>〇これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	〇	ケアプラン評価、ケース記録に添付。
40	<u>〇暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	〇	些細なことでも管理者に報告、対応に心がけ、家族に報告。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	非常勤勤務者にわかるよう連絡ノート記入特記事項にあげる。
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	追加、見直しは職員全員に申し送り時に伝える。
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	見直したいことは、職員全員に伝える。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	○	家族の意向を大切にしながら支援本人に合った支援も大切にし相談の応じる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		必要があれば対応
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	○	必要に応じて対応、法人の意向もある
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		対応に心がけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		必要に応じ対応、学んで行きたい。
49 (19)	○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	気になる時は主治医、訪看などに連絡を入れ、受診に行く。
50	○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	家族からの理解が得られない、難しい。ご家族によると、服薬も良い、何故、服薬する必要があるかと尋ねられる。
51	○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	体調、気になることは必ず相談し報告は怠らないように気をつけている。
52	○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	○	連携は保っている。
53 (20)	○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○	御家族様は安心されている。必要に応じ対応
54	○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	グループホームでも看取りの必要な人もある為、会議などで話し合っている。ご家族の希望、意向など聴きながら配慮。
55	○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	住み替えのないよう支援の方向で行ければと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	〇	職員全員に配慮ができていない特に言葉使いに注意。
57	〇 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	〇	職員が9名様の特徴を理解し、よく話し合う。周辺症状の理解、個々の違いを認めながら支援。
58	〇 “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	〇	役割の大切さを考慮しながら職員の見守りの中で実施したい。
59 (22)	〇 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	〇	職員は、必ず見守り、声掛け実施。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	〇	おひとり、おひとりに声掛け、見守りをする。
61 (23)	〇 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	〇	食器洗浄する人は時々声掛けし、休んで頂き癒しのひと時をもつ。
62	〇 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	〇	本人に必ずお尋ねし、希望に添っている。
63	〇 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	〇	職員声掛けの工夫。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<u>〇入浴を楽しむことができる支援</u> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	〇	入浴時間の工夫課題です。
65	<u>〇安眠休息の支援</u> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	〇	本人の希望に添って対応
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<u>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	〇	職員に支援が得意な人がいる。残存能力(知的能力)を引き出す支援歌を唄うことは全利用者、参加が可能。
67	<u>〇お金の所持や使うことの支援</u> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	〇	最近、車椅子の人が2人おられるので、外出が難しい。外出が気分転換できる、皆さん大好き、支援に心がける。
68 (26)	<u>〇日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	〇	全員参加がなかなかできない。
69	<u>〇普段行けない場所への外出支援</u> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		家族との旅行など検討中。
70	<u>〇電話や手紙の支援</u> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	〇	利用者様皆さんにきる支援。声掛け、見守り。
71	<u>〇家族や馴染みの人の訪問支援</u> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	〇	ご家族の方いつもこころよく来園される。
72	<u>〇家族の付き添いへの支援</u> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	〇	冬は布団の用意がない、準備したい。夏は大丈夫かな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	誕生日会、運営推進会議、法人の行事など、参加の呼びかけ、グループホーム便り。	☐ 運営推進会議の呼びかけには、参加がえられないため、再度工夫する。
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	言葉かけは注意、優しく、穏やかに行う。できるかぎり、安定剤など服薬はひかえている。	☐ 職員同士の声掛けにも注意し、きずいたら、お互いに話し合い、研鑽しながら業務を行う。
75 (28)	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	実践しているが、帰宅願望の人に対する対応できる限り、気分転換を図りながら、柔軟に対応。	☐ 気分転換をはかる調理の手伝い、ぬり絵、パズル、散歩、対話
76	〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者のペースに合わせて支援 9名様の所在地確認につとめる。	☐ むりやりに引き止めない。
77	〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	なるべく手の届かない所に物品を置いている。	☐ いつも、見守り声掛けをする。
78 (29)	〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	服薬時は必ず、配薬箱の確認、名前の確認飲まれるまで確認をおこたらない。	☐ 利用者様全員見守り、声掛け、誤薬にきおつける。
79 (30)	〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	デイサービスの職員と一緒に誤嚥についての勉強会を行う。	☐ 運営推進会議の誤嚥予防を行う。 H20. 4. 24(木)。
80	〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリはっと報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書の記入 職員全員が読む、確認。	☐ 実施されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	6月に運営推進会議をかね、DS、支援ハウス、GH合同の防災訓練を実施する予定。 地域住民にも声をかけ参加のお願いをし
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	必ず管理者が報告、連絡する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	○	家族様への報告、連絡などは密に行っている。報告ノートの作成をする。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	○	服薬後は配薬箱の確認、忘れがないかを再度確認。
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	○	便失禁をされると、戸惑われる為、服薬にきをつける。
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	○	義歯の保管はするが、無理強いせず本人にまかせる。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○	変化、希望などは連絡ノートに記入し、職員が確認しあう。
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	○	心がけていることは手洗い、うがいは必ず行う。 排泄後、食事前、外出後、良く説明し必ず行う。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	スーパーが近い為、無駄なものは購入しないように心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		工夫が足りない。
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	○	家族様、面会時など喜ばれる、居室にも手作りカレンダーを掛ける。
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	○	時々、雰囲気が悪くなることもある。工夫、工夫と考えている。
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族の中には新し物を購入したいと気づかいをされますが使いなれたもので十分ですと話し合っている。
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	○	職員によるとしない為、いつも心がけるよう注意をうながす。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	○	座る位置は最初からいる人は自分の考えはかえれない為、難しい。職員の悩みのたねです。
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	○	職員にいつも目配り、気配りをおこたらないよう会議などで、話し合う。
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	○	プランターを置いたが花を全部つんだり、水やり、雨の日でもされるので、これもまた困難。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの ②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある ②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが ②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが ②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが ②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない 職員の付き添いでは、出かけることは、あるが、全員とはいかない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが ②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが ②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと ②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに ②数日に1回程度 ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない ②少しずつ増えている ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが ②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが ②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが ②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない